

第 13 回「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 京都環境文化学術フォーラム国際シンポジウム・企業連携企画

開催結果概要

1 趣旨・目的

「京都議定書」誕生の地である京都において、世界で地球環境の保全に多大な貢献をされた方の功績を顕彰するとともに、京都から世界に向けて広く発信することにより、あらゆる国、地域、人々の地球環境問題の解決に向けた意志の共有と取組に資することを目指す。

2 日時

2022 年 11 月 14 日（月）午前 10 時～午後 5 時

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| (1) 「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 | 午後 1 時～1 時 40 分 |
| (2) 京都環境文化学術フォーラム国際シンポジウム | 午後 2 時～5 時 |
| (3) 京都環境文化学術フォーラム企業登壇シンポジウム | 午前 10 時～正午 |
| (4) 京都環境文化学術フォーラム企業・団体ブース展示 | 午前 10 時～午後 5 時 |

3 場所

国立京都国際会館・Annex Hall（京都市左京区岩倉大鷲町 422）

4 内容

(1) 「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式

ア オープニング・アトラクション



尺八演奏家の勝俣祐哉氏が代表を務めるアンサンブル・ジャパンにより、尺八演奏者、ヴァイオリニスト、ピアニストの 3 名に演奏いただきました。

イ 表彰式

「KYOTO 地球環境の殿堂」運営協議会の山極壽一会長より、第 13 回殿堂入り者に対して、認定書及び記念品を授与しました。



<第 13 回殿堂入り者>

ヨハン・ロックストローム 氏（ポツダム気候影響研究所所長）
村上 一枝 氏（歯科医師、カラ＝西アフリカ農村自立協力会代表）
西岡 秀三 氏（公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）参与）

<授与者>

山極 壽一 会長（総合地球環境学研究所所長）

※ヨハン・ロックストローム氏はオンライン中継

ウ 記念スピーチ

第 13 回殿堂入り者より、殿堂入りに係る記念スピーチをいただきました。

(ア) ヨハン・ロックストローム 氏 ※オンライン中継



京都議定書そして日本のリーダーシップに感銘を受けている。著名な「KYOTO 地球環境の殿堂」に入れていただき光栄に思う。世界中の同僚とともにより安全な着地点及びプラネタリーバウンダリーはどこかを探っていくためのエネルギーをいただいた。

(イ) 村上 一枝 氏



マリで地を這うように活動している団体。活動から 30 年経って村人が自立して生活できるようになった。現在は活動が縮小しているが、村の人たちの生活が昨日より今日、今日より明日へ良くなることを目的として支援を続けていきたい。

(ウ) 西岡 秀三 氏



自然の警告を代弁し、社会に選択肢を提示することで、世界中に散らばった研究成果や知見を集めて地球環境の保全に役立つ人類の知恵をまとめる仕掛け作りに貢献できたと思う。仕掛け作りにはチームワークが重要で、貢献した多くの方々を代表して受賞したい。

(2) 京都環境文化学術フォーラム国際シンポジウム

「地球と人の未来につなぐ～持続可能な地球・地域・暮らし～」をテーマにシンポジウムを開催しました。

ア 記念講演

第 13 回殿堂入り者より、自身の取組等に関する記念講演をいただきました。

(ア) ヨハン・ロックストローム 氏 ※オンライン中継



プラネタリーバウンダリーだけでなく、安全で公正な未来そして希望のチャレンジについて話す。

現在 9 つの指標のうち 6 つが臨界点を超えている。これは非常に深刻で、地球上のレジリエンスが失われ、地球のストレス対応力が低下している。これまで自然が地球システムに対し、均衡のとれた状況になるよう人類をサポートしてきたが、持続可能な形での自然への対処、地政学的な不安定さによって、各国に不安が生じ経済的な問題に発展している。このような状況に対し、人類が地球全体のために取り組んでいかなければならないチャレンジングで重要な時期。

プラネタリーバウンダリーは、科学的な臨界点を示している。各項目を超えてはならないティッピングポイントがある。ティッピングポイントを超えないよう、全力で地球を安全な域へ戻さなければならない。

(イ) 村上 一枝 氏



マリ共和国の農村部で村人の自立した生活支援の活動の一端を紹介する。

マリ共和国は周囲を7か国に囲まれ、砂漠が国土の3分の2を占めている国。最近、雨季が約1か月早まり、気温が上昇。雨量が不安定なため、農作業が難しい。

「自立」の中には、病気を自分で治す、病気にならないようにするといったことが含まれており、それがアフリカへ行った一番の目的。そのためには、村人に理解してもらう必要があり、指導できる女性を200人近く育成。20年後、下痢の子供がいなくなり、予防接種も受けるようになった。そして、女性がお金を持つことができると家庭内暴力も減った。

支援のやめ時は非常に大きな問題。私としては、一定の自立を確認できたので、2019年に現地と距離を置いて、現在は日本から支援している。

(ウ) 西岡 秀三 氏



「地球温暖化大実験を終わらせる」と題して、話す。

1957年、ロジャー・ルベル氏が「人類は今、過去には起こりえなかったしそして将来にも再現できない地球物理大実験を始めている。」として、「人為排出CO₂で地球は温暖化するか否か」という仮説を提唱した。

「気候」はすべての自然の母であり、地球上の誰もが無料で使用できる。そして、変化はほぼ不可逆であり、不可欠で最重要な自然資源であることから、自然には畏敬の念を持って謙虚に向き合う必要がある。

知恵を集めて将来を考えることは、新しい科学の出現。これからは「実行」という新しいフェーズで、経済的にCO₂を減らす技術・システムは十分にある。残りの炭素予算を考えるとCO₂を減らさなければいけないことは明白。大実験をとめるには、人智・理性を信じて覚悟を持って行動することが必要で、新たな世界の創造というエキサイティングな時代である。

イ パネルディスカッション

「地球の限界を知った私たちには何ができるのか」をテーマにディスカッションを行い、最後に各パネリストから若い世代へのメッセージをいただきました。



<パネリスト>

村上 一枝 氏（第13回殿堂入り者）

西岡 秀三 氏（第13回殿堂入り者）

山極 壽一 氏（総合地球環境学研究所所長）



<コーディネーター>

国谷 裕子 氏（ジャーナリスト）



ウ 府内高校生と殿堂入り者とのトークセッション

気候変動に関する専門家による3回の勉強会を通じて理解を深め、ビデオメッセージ作成等に取り組んだ府内高校生の中から5名が登壇し、各自で考えてきた気候変動等に関する疑問について村上氏、西岡氏に質問しました。また、客席の生徒からも質問しました。



<パネリスト>

村上 一枝 氏（第13回殿堂入り者）
西岡 秀三 氏（第13回殿堂入り者）
山本 晋裕 氏（京都府立北稜高等学校）
能山 雄登 氏（京都府立嵯峨野高等学校）
北澤 璃子 氏（京都府立桃山高等学校）
新谷 斎生 氏（京都府立南陽高等学校）
岡本 紗奈 氏（京都府立福知山高等学校）

<コーディネーター>

阿部 健一 氏（総合地球環境学研究所教授）

（3）京都環境文化学術フォーラム企業登壇シンポジウム

ア 特別講演

「地球と人の未来を創る企業経営の在り方とは」をテーマに、環境先進国であるスウェーデン企業のイケア・ジャパン株式会社の取組について、御講演いただきました。



<講師>

平山 絵梨 氏（イケア・ジャパン株式会社／Country Sustainability Manager）

イ 企業登壇シンポジウム

「地球環境保全・脱炭素社会の実現に向かう企業たち」をテーマに、企業4社に御登壇いただき、シンポジウムを開催しました。



<パネリスト>

鈴木 隆博 氏（イオン株式会社／環境・社会貢献部部長）
矢崎 靖典 氏（ENEOSホールディングス株式会社／執行役員 未来事業推進部部長）
後藤 収 氏（日産自動車株式会社／理事 渉外担当役員）
高橋 信吾 氏（PwCコンサルティング合同会社／ディレクター）

<コーディネーター>

八木 早希 氏（フリーアナウンサー）

(4) 京都環境文化学術フォーラム企業・団体展示ブース

環境・経済・社会の好循環を生み出す社会を目指すべく、地球環境保全や脱炭素社会の実現に資する先進的な取り組み等を企業・団体が各ブースで発信しました。

また、EV車、小型モビリティの試乗会を開催しました。



<ブース出展企業・団体>

カラ＝西アフリカ農村自立協力会／公益財団法人地球環境戦略研究機関／あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／イオン株式会社／エコリンクス株式会社／エフビットコミュニケーションズ株式会社／エムケイ株式会社／オムロンソーシアルソリューションズ株式会社／株式会社大垣書店／株式会社川島織物セルコン／国際航業株式会社／株式会社島津製作所／象印マホービン株式会社／株式会社たけびし／凸版印刷株式会社・旭化成株式会社／パナソニックグループ／株式会社フィリップス・ジャパン／エコ～るど京大／Climate Youth Japan (CYJ)／Lápiz Private／立命館大学学友会登録団体 natuRable／京都府地球温暖化防止活動推進センター／京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）／総合地球環境学研究所／京と地球の共生府民会議×WE DO KYOTO! ユースサポーター

<パネル出展企業・団体>

福知山市／綾部市／宇治市／長岡京市／国立大学法人京都大学／公益財団法人国際高等研究所／一般社団法人ふろしき研究会／京都市ごみ減量推進会議／京都大学大学院 地球環境学舎 浅利研究室／美山木匠塾／Green Blue Education Forum 実行委員会／京都府文化学術研究都市推進課／京都府地球温暖化防止活動推進センター

<試乗会実施企業>

オムロンソーシアルソリューションズ株式会社／東京海上日動火災保険株式会社／日産自動車株式会社 京都日産自動車株式会社／三菱自動車工業株式会社

5 当日のアーカイブ動画

(1) 京都環境文化学術フォーラム企業登壇シンポジウム

<https://youtu.be/531izQYeqt0>



(2) 「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式

京都環境文化学術フォーラム国際シンポジウム

<https://youtu.be/v6ZbMi78hC0> (日本語版)

<https://youtu.be/o48Mq6Z40RI> (英語版)



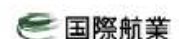
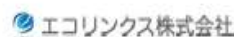
(日本語版)



(英語版)

6 協賛企業

イオン株式会社／ENEOS ホールディングス株式会社／日産自動車株式会社 京都日産自動車株式会社／PwC コンサルティング合同会社／あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／エコリンクス株式会社／エフビットコミュニケーションズ株式会社／エムケイ株式会社／株式会社大垣書店／オムロンソーシアルソリューションズ株式会社／株式会社川島織物セルコン／国際航業株式会社／株式会社島津製作所／象印マホービン株式会社／株式会社たけびし東京海上日動火災保険株式会社／／凸版印刷株式会社・旭化成株式会社／パナソニックグループ／株式会社フィリップス・ジャパン／三菱自動車工業株式会社



7 主催・構成団体

(1) 「KYOTO 地球環境の殿堂」運営協議会

京都府、京都市、京都商工会議所、環境省、人間文化研究機構総合地球環境学研究所、公益財団法人国際高等研究所、公益財団法人国立京都国際会館

(2) 京都環境文化学術フォーラム

京都府、京都市、京都大学、京都府立大学、人間文化研究機構総合地球環境学研究所、人間文化研究機構国際日本文化研究センター